

第5次芦屋市総合計画後期基本計画・第3期芦屋市創生総合戦略・第4次芦屋市市民参画推進計画及び第3次芦屋市文化推進基本計画（原案）への意見及び市の考え方

- 1 募集期間：令和7年9月14日（日曜日）から令和7年10月23日（木曜日）
提出件数：4人11件
提出方法：意見募集専用フォーム4人、ファクス0人、郵送0人、窓口持参0人
- 2 意見の要旨及び市の考え方
取扱区分：A（原案を修正します）：0件、 B（ご意見を踏まえ取組を推進します）：1件、
 C（原案に盛り込まれています）：1件、 D（原案のとおりとします）：9件

【資料1】

回答作成担当課が複数課にまたがる場合、
取扱い区分は総合的に判断されます。

（下線部が、変更になる可能性があります。）

番号	該当箇所	頁	市民からの意見（原文）	取扱区分	市の考え方
1	施策目標 13 急速な社会 変化に対応 できる組織 になっている	78	AI DX デジタル技術の観点で課題を感じます。 世間ではIT→インターネット→IoT→DX→AI/RPA→LLM→AGIの流れが加速し、 LLM（e.g.,ChatGPT）が普及する中、AGI（汎用人工知能）社会を見据えた戦略が不可欠です。 芦屋市の計画書では まだインターネット→IoTの場所にとどまっています。 本計画書では第II章後期基本計画の施策分野『行政・財政』（p.78付近）でICT活用やデジタル化が言及されるもの、 AI/LLMの具体策やAGI時代のリスクや課題（e.g.,雇用変革、教育革新、新産業創出、行財政改革）への問題意識 が不足しています。 この欠如は、芦屋市の競争力低下を招き、若年層流出を加速させる可能性が高く、経済停滞や文化活性化の機会損失 を招くため、極めて深刻です。 市民参画による民間の知見を総動員してAGI社会を勝ち抜き、次世代対応を強化する項目を新たにつくっていきま しょう。 市民ワークショップなどで議論を深め、時代をリードする芦屋市をつくっていきましょう	D	急激に変化している社会状況の中で、新しい技術の進化に対応し、効果的に本市の行政運営 を行っていくことは大変重要であると認識しております。今後も更なるデジタル活用の視点 を取り入れ、幅広くあらゆる世代や分野の市民の皆さまと協働し、より一層魅力あるまちづ くりを進めてまいります。
2	第4次芦屋 市市民参画 協働推進計 画	72	芦屋市計画の「陳腐さ」について 多くの自治体の市民参画計画は、依然として従来の「情報提供→意見募集→結果公表」という一方通行のプロセスに 留まりがちです。芦屋市の計画書も、パブリックコメントやワークショップといった伝統的な手法を主軸としてお り、「陳腐さ」が感じられます。 「多様な意見の反映」の欠如: 計画書は「多様な主体」との連携を掲げながらも、具体的なプルラリティ（多様性）を確保するための仕組みが見え ません。 意見が「反映される過程」の不透明さ: 市民の意見がどのように政策決定に影響を与えたのか、その過程がブラックボックスになりがちです。意見提出から 政策決定までのプロセスを可視化・追跡できる仕組みは、行政への信頼を高める上で不可欠です。計画にこうしたシ ステムの導入が検討されていない点は、市民の主体的な参画意欲を阻害する可能性があります。 先進技術・手法の活用視点の欠如: 現代社会では、ブロックチェーン技術を用いたDAO（分散型自律組織）による地域活性化や、デジタル通貨（トーク ン）を使った市民活動のインセンティブ設計など、市民参画や地域経済を根本から変革する手法が生まれています。 しかし、計画書にはこうした先端技術への言及がなく、DX時代の市民参画協働のあり方が全く示されていません。 デジタル時代に即した、市民参画・協働の抜本的改革を求めます 1. 「意見の可視化」と「参加の多様化」 現状の計画は、市民の意見を吸い上げるプロセスが限定的であり、芦屋市が目指す「多様な意見の反映」が困難で す。 提言: 意見提出から政策決定に至るプロセスを市民が追跡できる透明性の高いオンラインプラットフォームを導入す ることを求めます。 2. 「協働」の概念の再定義 計画書における「協働」は、行政主導のイベントへの市民ボランティア参加など、行政の補助的な役割に留まってい るよう見えます。 提言: ブロックチェーン技術を用いたDAOの仕組みや地域トークンの活用など、市民が自律的に地域課題を解決し、 その活動自体が評価される仕組みを行政が支援することを検討すべきです。これにより、市民一人ひとりが地域の担 い手となり、ボランティアではない新しい「協働」が生まれることを期待します。	D	主な施策「11-1-1市民参画・協働の理解促進」において、効果的な情報発信による周知や参画 機会の充実を図ることで、幅広く多様な市民の意見を市政に反映することとしており、パブ リックコメントやワークショップなど従来の市民参画の手法に加え、オンラインプラッ トフォームの活用についても先進事例を参考に、考えていく必要があると認識しております。 また、本計画における「協働」の定義は、「市民及び市がまちづくりについて、それぞれの 役割と責務を自覚し、互いに尊重し、補完し、協力すること」としており、市民と市は、笑 顔あふれる住みよいまちづくりを共に進めるパートナーであると考えています。市民の皆さ まの活動は、行政主導の事業への協力等のほか、まちの課題解決に向けた自発的な取組や市 民相互の協働による活動など様々な形で生み出されてきておりますので、市民、地域団体及 び民間事業者等の多様な主体の連携・協働がさらに促進されるような仕組みづくりに取り組 んでまいります。

番号	該当箇所	頁	市民からの意見（原文）	取扱区分	市の考え方
3	市民と行政がビジョンを共有する	14	芦屋市の総合計画策定において、「多様な主体がネットワーク的に連携」という理念が掲げられながらも、実際の市民参画の手法には重大な欠陥がある。市民の声を真に汲み取り、共通のビジョンを構築するためには、現在の形式的で閉鎖的なプロセスを根本から見直す必要がある。 まず、対話集会は形骸化している。人数と時間の制約により実質的な対話が成立せず、市民から寄せられた提案が計画に反映されない事例が多発している。これでは「キャッチボール」どころか、市民の声を聞くふりをしているに等しい。単なる説明会ではなく、双方向の議論を保障する手法への転換が急務である。 次に、「市民の声」制度は実質的に無力化されている。「今後の参考にします」という紋切り型の回答では、どの意見がどう扱われるのか不明瞭であり、市民と行政の対話が断絶している。提案内容に対する具体的なフィードバックと、採用可否の理由説明を行うべきである。 最も問題なのは市民委員の選考プロセスである。50名近い応募者からわずか4名のみを選び、落選者をオンライン参加させるなどの提案も拒否したことは、市民参画に対する消極的な姿勢を露呈している。選考基準が不透明で、恣意的な選定が疑われる状況は、行政の不誠実さを印象付ける。また、審議会メンバーが固定化され、「学識経験者」の基準が曖昧な点（そもそも未来を予見する専門家なのかどうか）も疑問である。多様な市民の声を反映させるためには、選考過程の透明化と委員の多様性が不可欠である。 総合計画の主演は市民であり、行政はそれを支援する立場であるべきだ。現状の手法は「行政が作成した計画に市民が従う」という旧来のトップダウン方式であり、共通ビジョンの形成とは程遠い。市民の意見書を計画策定の基礎資料として活用し、オープンな議論の場を設けることが求められる。 芦屋市の未来を考えるならば、形式的な市民参画を卒業し、真に開かれた対話の実現に向けて行動すべきである。透明性と包容力あるプロセスこそが、市民と行政の信頼関係を築き、真に持続可能な都市づくりにつながるのである。	D	「市民の声」でいただいたご意見やご要望は、真摯に受け止め対応しているところですが、すぐに回答や施政に反映できる場合、比較的短期間の調査や検討後に結論をお伝えできる場合、将来の施策の検討の中で参考にさせていただく場合等内容により対応が異なりますため、ご説明できる範囲で丁寧に対応するよう努めております。 （一般論としては）市民委員の選考プロセスについては、各附属機関等においてあらかじめ募集人数を定め、審議内容等を勘案して設定したテーマに係る作文の提出を求め、担当課に設置した選考委員会において公正に選考しております。選考にあたっては、応募者の氏名は伏せ、恣意的な選考とならないよう取り扱っています。なお、落選された方の提案内容等については担当課において参考にさせていただいております。また、学識経験者については、各担当課の考えのもと、計画等の策定において必要な知見をお持ちの学識者等を選任しており、多様な意見を市政に反映できるよう努めております。
4	計画全般		注意） 本計画は、芦屋市が現在最も重要と判断した課題に焦点を当て、重点的に取り組むべき項目をまとめたものです。今後の市民の皆様からのご意見や社会情勢の変化を踏まえながら、不断に見直しと充実を図ってまいります。投資効果に関する数値は、現時点での予測値であり、今後の政策実施の過程において、詳細な調査と専門的な分析に基づき、随時見直しと精緻化を行ってまいります。根拠となる情報については、透明性をもって公表してまいります。 <u>パブリックコメントへの対応について、以下のようにお願いいたします。</u> <u>1. 行政視点による解釈の制限について</u> <u>市民からのパブリックコメントに対するご回答につきましては、行政の解釈や立場に基づく返答はお控えいただき、客観的事実に基づく中立的な対応をお願いいたします。</u> <u>2. AIを活用した公平な分析の実施</u> <u>公平性と正確性を確保するため、生成AIを活用した分析を一次情報としてご活用ください。これにより、人的バイアスを排除した中立的な視点からの回答が可能となります。</u> 3. 総合的な計画分析の依頼 芦屋市の基本目標である： A. 持続可能な市政の実現 B. 市民のウェルビーイング向上 C. 豊かな住環境の維持 これらの観点から、行政が提案する総合計画原案と、市民提案のPLAN-B（22ページ参照）を総合的に分析・比較していただき、双方の長所を活かしたより良い計画の策定をお願いいたします。 このようなプロセスを通じて、市民と行政の対話の質が向上し、より多くの市民の声が反映された計画となることを期待しております。何卒、よろしくお願い申し上げます。	D	パブリックコメントへの対応について 1.パブリックコメントに対する回答は、施策立案の背景や趣旨等を踏まえ、いただいたご意見について総合的に検討を行った結果を市の考えとして公表しています。ご意見の検討にあたっては、市政運営の公正さの確保と透明性の向上を図るというパブリックコメントの目的に照らし、適正に対応しています。 2.AI技術を活用することで、大量・複雑な情報の分析が可能になると考えておりますので、虚偽情報や権利侵害等のリスクに留意し、適時業務に活用してまいります。

番号	該当箇所	頁	市民からの意見（原文）	取扱区分	市の考え方
5	総合計画本文に関するコメント①		1）20ページ上から7行目：「外国人市民」の補足説明が必要ではないかと思ひます。外国籍住民、外国にルーツを持つ住民または市民など、多様なカテゴリーがあると思ひます。芦屋市総合計画では外国人市民をどう定義づけているのかの説明が必要と考えます。 2）20ページの本文にある「後期基本計画策定に当たっては、これら3つの要素の共通性を高めるため、従来から総合計画と一体的に策定している創生総合戦略に加え、文化推進基本計画、市民参画協働推進計画も合わせて策定することとしました」の中の「3つの要素の共通性を高めるため」の意味がよく理解できません。そもそも、なぜ3つの要素を重視したのかの説明が本計画の中で十分になされているのかどうか、よくわかりませんでした。かりに、3つの要素が重要であることが理解できたとしても、「3つの要素の共通性を高める」の意味をわかりやすい文章にしてもらう方がよいと考えます。正しく理解しているかどうかはわかりませんが、「3つの要素各々の施策と総合計画の間の連動性を高めるため」という意味ですか？ 3）22ページ上から3行目：「well-being」の表記は、ウェルビーイング（well-being）のように、日本語表記を主とした方がよいと考えます。また、注釈がついていますが、この定義は、WHOによる定義と同じですので、そのように表記すべきと考えます。ウェルビーイングの定義はいくつかあるので、芦屋市総合計画はどの定義を選択しているかを明示したほうがよいと考えます。 4）52ページの6.2環境へ配慮した都市生活の仕組みを築き、意識を高めます：持続可能な生産と消費はSDG12の重要課題であり、中でも、食品ロス問題は深刻です。芦屋市においても、ごみを出さない消費生活をより強く打ち出すべきと考えます。芦屋市民の意識と行動変容を促すためにも、食品ロスの削減やフードバンクなどの推進などに触れてほしいと考えます。 5）56ページの7.1自助、共助、公助の連携により、災害に備えます：芦屋市の考える自助、共助、公助の連携の仕方について説明があるべきと考えます。災害のみならず、日常生活においても検討すべきことと考えるので、70ページ以降の「施策目標11 協働の意欲が高まり市民主体のまちづくりが進んでいる」においても言及すべきと考えます。	C	「協働」は、災害対応に限らず、本市の様々な施策における日頃からの課題解決の基盤であり、自助・共助・公助が連携・補完し合うことで、まちづくりの持続可能性が高まるものと認識しておりますので、施策目標11には、自助・共助・公助という記載はしていませんが、ご意見の趣旨は含んでいるものと考えています。日常生活において市民の自助（学び、参加、行動を起こす等）を促し、市と市民、地域団体及び民間事業者等の多様な主体がそれぞれの役割で連携・協働できる環境整備を進めてまいります。
6	総合計画本文に関するコメント②		1）70ページの下から8行目から「一方、人材確保や活動の継続性が困難になってきている状況にもあります。今後も継続して、多様な主体のまちづくりへの積極的な参画を促すとともに、活動の活性化を図る必要があります」：人材確保のために、「新たな人材発掘」が重要と考えます。この点に関連して、72ページ11-1-2で明確にしているので、行政、事業者、学校などでまちづくりへの関心を高めるための施策や活動を展開すること、や、新しい人材向けの育成プログラムと既存の人材のスキルアップ講座などにも言及すべきと考えます。 2）16～17ページでASHIYA SMILE BASEについて説明しています。総合計画を市民が当事者として受けとめ、まちづくりに参画していくために、ASHIYA SMILE BASEをもっと活用すべく、施策の中に取り入れてほしいと考えます。総合計画全体を通じて、芦屋市民がまちづくりを自分事化していく、後押しする内容が弱いと感じています。ASHIYA SMILE BASEは市民の声でできたスローガンということですから、ぜひ、この言葉を浸透させるべく施策に組み込んでほしいと考えます。	B	72ページの11-1-2において、「協働」をコーディネートできる人材の発掘や養成等に取り組み、活動人口の増加を目指したいと考えていますので、いただいたご意見も参考にし、取組を進めてまいります。
7	施策指標についてのコメント		以下、「施策指標」に関するコメントです。 ・29ページ⑥⑥の利用者数と満足度の終了時目標51384と28.0は前期目標の61452と29.0よりも目標を落としているのはなぜですか？上げるべき目標ではないのでしょうか。 ・34ページ②の自己肯定感の目標値はもう少し高く設定したほうがよいと考えます。個別最適化教育の成果を部分的に測りうる指標と考えますし、現市政の重点項目であると理解しているからです。 ・39ページ③の自発的な学びの機会の目標値を下げているのはなぜですか。実績ベースに引っ張られていいのかわかりにくいです。コロナ禍の影響もあり、現在も実績値が低く出ている可能性があるかもしれません。オンライン上の学びの機会を増やしているかもしれないので、その指標を加えることも検討できると考えます。 ・43ページ②は、高齢者や障がいのある当事者が安心して暮らせるまちであると思う割合にすべきではないですか？身近に高齢者や障がいのある人がいなければ、判断しづらいのと、他者評価が有効であるとは考えにくいからです。 ・71ページ①の目標値はもう少し高く設定すべきではないかと考えます。自助、共助を推進するのであれば、7割以上の市民が市民参画や協働の重要性を認識するように施策を展開すべきと考えます。 ・71ページ②の地域活動に年1回以上参加については、「年1回」に絞ってしまっただけでよいかわかりにくいです。市民によっては、生活スタイルもあって、毎年地域活動に参加できるかわかりにくいです。そこで、2年間あるいは3年間の中で1回以上とし、目標値も60パーセントにあげるという方が現実的ではないかと考えます。	D	・71ページの指標①の目標値は、上昇率が前期計画策定時実績から最新実績の上昇率の2倍を目安に設定しています。市民参画・協働は、本市の様々な施策に共通するまちづくりの基盤であり、自助・共助を推進する趣旨は含んでいるものと考えていますので、目標値を上回ることができるよう市民参画・協働の理解促進に取り組んでまいります。 ・71ページの指標②は、これまでの市民アンケート調査を参考に、経年変化を確認するためにも、前期計画策定時と同じ内容で指標を設定しています。今後計画の進行管理をしていく中で、いただいたご意見を参考に、より適切な指標の設定について検討してまいります。

番号	該当箇所	頁	市民からの意見（原文）	取扱区分	市の考え方
8	計画全般		芦屋市総合計画に対するパブリックコメントを今回を含め27件提出しており、また、総合計画原案に代わるもの併記するものとしてPLAN-Bを提出しています。芦屋市が策定する総合計画は、今、重大な岐路に立っています。 最大の論点は、人口減少を既定の事実として容認し、衰退していく社会を管理する計画とするのか、それとも、この危機的状況を「変革の契機」と捉え、市民の英知を結集して新たに輝く社会の青写真を創り上げる計画とするのか、という点です。 世界に目を向ければ、国連の予測によれば2050年には世界人口が97億人に達し現在より20億人以上も増加します。この成長と活力が渦巻く世界の中で芦屋市だけが縮小と衰退の運命をたどる必然はありません。 未来は、私たちの選択と行動によって創られるものです。 そこで、本計画の質を飛躍的に高め、真に将来世代に責任を持てるものとするため、以下の具体的なプロセスによる「芦屋の未来を考える市民主導の会議体」の設置、及びその成果を本計画に反映することを強く要請します。 <u>【基本構想：市民主体の協創型プラットフォーム】</u> 従来の審議会方式を超え、広く市民の知見と創造性を集めるため、デジタル技術を駆使した開かれた協議の場を設けます。その進め方の具体案は以下の通りです <u>1. 既存市民委員候補のネットワーク活用</u> 前回の総合計画策定に際し募集された約50名の市民委員に応募された方々には、まずその経験と知見を継承していただきます。委員募集時に提出された「持続可能な芦屋の未来」をテーマとするレポートについて、改めて使用許諾を得ることで、貴重な市民の声を公式の議論の土台とします。 <u>2. 新たな市民参画の機会創出</u> 既存の市民委員候補に限定せず、芦屋市民であれば誰でも、本テーマに関してレポートや提案を新規に提出できる機会を設けます。これにより、より多様な立場とアイデアを収集します。 <u>3. AIを活用した意見の構造化と分析</u> 収集された全てのレポートと提案を、生成AIやGitHubなどのプラットフォームを活用し、自動的に政策課題ごとのノード（分野・論点）に振り分け、論点の構造化と論理ツリーの生成を行います。これにより、数百に及ぶ市民の声を、効率的に整理・分析し、議論のベースとします。	D	主な施策「11-1-1市民参画・協働の理解促進」において、効果的な情報発信による周知や参画機会の充実を図ることで、幅広く多様な市民の意見を市政に反映することとしており、パブリックコメントやワークショップなど従来の市民参画の手法に加え、オンラインプラットフォームの活用についても先進事例を参考に、考えていく必要があると認識しております。ご提案いただきました「市民主体の協創型プラットフォーム」につきましては、技術面や制度面等において創意工夫や多角的な視点からの十分な検証が必要であると理解しましたので、導入する際にはご意見を参考にさせていただきます。
9	計画全般		（前文からの続き） 4. オンラインによる市民参加型ブレインストーミング 構造化された論点を基に、オンラインプラットフォーム上で市民を広く募り、ブレインストーミングと深化した議論を実施します。時間と場所の制約を超え、活発な意見交換を促します。 5. 行政による公式な支援と方針表明 この市民主体の活動が「勝手連」的と誤解されることなく、正当な政策議論の場として機能するためには、初動段階における市長部局による公式な支援と「検討を約束する」との方針表明が不可欠です。 6. 超党派の議員参画と政治的バックアップ 議論がある程度まとまった段階で、超党派の議員の方々に参画をいただき、市民と議会の協働により政策案を磨き上げるとともに、その実現に向けた政治的バックアップを確保します。 7. 行政による計画書への落とし込み 最終的に、市民と議会の協創によって練り上げられた政策の大綱を、行政組織が総合計画のフォーマットに沿った実行可能な計画書として仕上げます。 このプロセスは、従来の「行政が作り、市民がコメントする」という一方通行のモデルを、「市民が創り、行政と議会が形にする」という協創のモデルへと転換するものです。 どうか、この提案を真摯にご検討いただき、芦屋の未来を切り開く第一歩を共に踏み出しますよう、心からお願い申し上げます。 この新たな会議体の意義は、単なる計画策定の手法変更にとどまりません。 人口減少という困難な課題に直面する中で、行政のみに未来を委ねるのではなく、市民一人ひとりが主体となり、知恵と責任を分かち合う「新しい自治の形」そのものを創り出す実践の場です。 衰退への諦観を希望への行動へと転換し、私たち自身の手で芦屋の歴史を次のページへとめくる。 その決意を共有するプラットフォームとして、この構想を推進することを、市民の総意として強く求めるものです。	D	（８３・８４のご意見は連続しておりますので、８３にてまとめて回答いたします。）

番号	該当箇所	頁	市民からの意見（原文）	取扱区分	市の考え方
10	計画全般		p58 交通安全 →自転車の危険運転散見（ライト坂/ノーヘルで猛スピードで下り、開森橋交差点を対角線に横切り右折。阪急芦屋川北側の下り坂、車線の進行方向を逆走して南に下る等）、阪急芦屋川 - 送迎待機の車、阪急バスが気の毒。車種は立派でも運転マナーが伴わない（歩行者優先されないこともよく有）。 p61 地域医療の連携 →人材育成と確保が重要課題と思います。市のふるさと納税に地域医療・福祉を加えるトカ。12-1-2 に通じる p62 道路及び公園施設の維持管理手法 → 包括管理業務委託 業者選定の入札落札プロセスに正直なところ疑念有。委員会の録画も視聴、議員の質問に対する芦屋市の職員の答弁が堂々巡りで典型的なお役所仕事と見受けて残念。地元地域経済の活性化について市長の見解を伺いたかった（伺いたい）です。 p64 緑の質の向上→ 街路樹の更新、桜→芦屋川以北の桜は長年手入れが手薄で痛ましい老木に。マンション販売広告の満開の桜のイラストに偽りありじゃないかと思ってしまう。未利用地に課税するより、緑化推進で税優遇とか。 p68 10-1-2 道路の適切な維持管理→ 芦有道路下り方面、スピード出し過ぎ防止に路面を凸凹をつけるトカ。 p76 11-1-3 市民への丸投げはしないでほしい。DXが進むなか、現場の課題については、職員の創造的な課題解決能力、創造力、当事者心理の理解、人間力が養われる市政であってほしい。p78 施策 職員像に通じる pp85-89 人口減少、自然減、少子高齢化の問題。個人的には過去30年の国の経済政策に大きく起因すると考えているので、市の努力だけでは不可抗力の面もあると感じる。消費税、インボイス、独身税、走行税、どれも個人事業主には痛手。個性的な個人商店が街角のここそこにあるのも景観の一部と考えてほしい。老老介護も課題に加えてほしい。 p96 観光資源については加熱するインバウンドの問題に鑑みて慎重にお願いしたい。六甲山系の入口の役目を果たしており、歴史的な文化住宅の維持や住みやすい町としての賢明な都市計画に価値と魅力を見いだせるメンタリティを市民の心の財産に。 p97 屋間人口 起業家・芸術家ハブのような界限づくり？（次世代、イノベーション、ベンチャー企業）	D	11-1-3では、市民、地域団体、民間事業者等多様な主体の協働によるまちの課題解決に向けた活動を推進するため、市はその「仕組づくり」を進めていきます。本計画における「協働」は、市民の皆さまと市がそれぞれ果たすべき役割を自覚し、お互いに補完しながら協力してまちづくりを行うことですので、市がやるべきことを市民の皆さまへ転嫁するものではなく、また、笑顔あふれる住みよいまちにするためには、より多くの多様な市民の皆さまにまちづくりに関わっていただくことが重要であると考えています。市民の皆さまの活動は、行政主導の事業への協力等のほか、まちの課題解決に向けた自発的な取組や市民相互の協働による活動など様々な形で生み出されてきておりますので、さらに促進されるような仕組みづくりに取り組んでまいります。なお、取組を推進する過程において、市民の皆さまと対話を重ね、市職員の人材育成に取り組んでまいります。
11	計画全般について		この街が気に入っているので街の運営に個人としても、得意分野を活かすなどして(自分であればITなど)かかわれるようにしてほしい 打出駅周辺についても具体的な街の整備方針をつくってほしい 給食費はあげても美味しいご飯を給食で提供してほしい 子育て世代として東京から転入してきたが、QOLが格段にアップした 子育て世代の芦屋市への移住引越しについてもっとアピールするプロモーションをしてもよいのではないかと PTAの活動に関してもっと共働きでも参画しやすいように改善していきたいので、市としても支援してほしい 電池のリサイクル回収できるところをもっと増やしてほしい 若者や文化人などの集まれる溜まり場みたいなものをつくってほしい 釣り場としても有名なので市としてもうまく活用してほしい 奥池など周辺を活用して、神戸市のようにマウンテンバイクコース整備などをして、市外からのスポーツ好きの来訪を増やしてはどうか？	D	本市では、市民活動の促進・協働の拠点である「あしや市民活動センター（リードあしや）」において、様々な市民活動団体の紹介や活動の場の提供など種々の支援を行っています。ご自身にあった活動やまちづくりへの関りを見つけていただく場として、是非当センターをご活用ください。また、各施策において随時ワークショップの開催や審議会等の市民委員の募集を行っておりますので、得意分野を活かしたご提案やご意見をいただく機会としてご活用いただきたいと思います。